

中國文學報既刊總目

(1954年10月第一冊～1965年4月第二十冊)

中國文學報
第二十冊

1 總記			
虛字考	青木正兒	4	
伎樂源流考	濱一衛	9	
紹介：人民共和國に於ける世界文學選讀書目	都留春雄	2	
書評：李長之「中國文學史略稿」林庚「中國文學簡史」	荒井健・一海知義・清水茂・高橋和巳・村上哲見	4	
書評：魚返善雄・高田淳共譯オディル・カルタンマルク・ゲキエ「中國文學史」	島田久美子	7	
書評：グレン・バクスタ「中國文學」陳世讓「中國文學」小川環樹「中國文學」	吉川幸次郎	8	
書評：斯波六郎「中國文學に於ける孤獨感」	入矢義高	2	
書評：斯波六郎「中國文學に於ける孤獨感」	福永光司	9	
書評：「浦江清文錄」	清水茂	11	
書評：倉石武四郎・須田禎一編譯「歷代詩選」	武部利男	15	
書評：北京大學中文系文學專門化一九五五級集體編著「中國小說史稿」	橋本堯	15	
書評：李希凡「論中國古典小說的藝術形象」	入谷仙介	16	
書評：夏承燾・吳熊和「讀詞常識」	小川環樹	19	
書評：王力「漢語詩律學」	小川環樹・入矢義高	9	
書評：張相「詩詞曲語辭匯譯」	入矢義高	1	
書評：彭楚南譯N・Iコンラッド「論漢語」	清水雄二郎	2	
2 先秦文學			
詩經とヨーロッパの民謡	ジャン・ピエール・ディエニ	18	
書評：E・パウンド「詩經」英譯	バートン・ワトソン	3	
左傳の書きかた一その文學的側面について一	バートン・ワトソン	7	
3 漢代文學			
項羽の垓下歌について	吉川幸次郎	1	
漢の高祖の大風歌について	吉川幸次郎	2	
書評：吉川幸次郎「項羽の垓下歌について」「漢の高祖の大風歌について」	桑原武夫	4	
賈誼の賦について	金谷治	8	
賈誼の「鵬鳥の賦」の立場	伊藤富雄	13	
史記にあらわれた司馬遷の因果應報の思想と運命觀	今鷹眞	8	
史記における人間描寫	田中謙二	13	
身振りと文學—史記成立についての一試論—	宮崎市定	20	

文學としての孔子世家	バートン・ワトソン	2
書評：ワトソン「太史公司馬遷」同「太史公書一司馬遷の史記よりの翻譯」	今 鷹 眞	18
書評：賀次君「史記書録」	神 田 喜 一 郎	10
韓詩外傳の一考察—説話を主體とする詩傳の持つ意義—	西 村 富 美 子	19
推移の悲哀—古詩十九首の主題—(上)(中)(下)	吉 川 幸 次 郎	10, 12, 14
書評：バートン・ワトソン「古代の中國文學」	金 谷 治	19
敦煌出現の胡笳十八拍	小 島 祐 馬	13
紹介：「胡笳十八拍」論争	入 矢 義 高	13
4 三國晉南北朝文學		
書評：小尾郊一「中國文學に現れた自然と自然觀—中世文學を中心として—」	寛 文 生	19
六朝文學に現はれた山水觀	小 尾 郊 一	8
「賦得」の意味について	斯 波 六 郎	3
文選挽歌詩考	一 海 知 義	12
王粲詩論考	伊 藤 正 文	20
阮籍の詠懷詩について(上)(下)	吉 川 幸 次 郎	5, 6
嵇康詩小論	興 膳 宏	15
嵇康の飛翔	興 膳 宏	16
書評：D・ホルツマン「嵇康の生涯と思想」	福 永 光 司	13
嵇康・阮籍から陶淵明へ—矛盾感情の文學的處理における三つの型—	鈴 木 修 二	18
陸機の傳記とその文學(上)(下)	高 橋 和 巳	11, 12
陸機の生涯と「文賦」制作の正確な年代	陳 一 海	8
陸機文賦理論與音樂之關係	饒 宗 頤	14
潘 岳 論	高 橋 和 巳	7
西晉の詩人張協について	一 海 知 義	7
詩人としての郭璞	興 膳 宏	19
歸去來の辭について	吉 岡 義 豊	6
書評：王瑤編注「陶淵明集」	一 海 知 義	6
書評：葉笑雪「謝靈運詩選」	高 木 正 一	12
書評：網祐次「中國中世文學研究—南齊永明時代を中心として—」	小 尾 郊 一	13
劉勰「文心雕龍」文學論の基礎概念の検討	高 橋 和 巳	3
書評：斯波六郎「文心雕龍原道篇札記」「文心雕龍札記(≡)」	吉 川 幸 次 郎	3
書評：高松亨明「詩品詳解」	入 矢 義 高	14
任昉述異記について	森 野 繁 夫	13
冥界游行(上)(下)	前 野 直 彬	14, 15

5 唐五代文學

新撰類林抄校讀記

書評：吉川幸次郎・桑原武夫「新唐詩選續篇」
倪海曙「唐詩的翻譯」

書評：前野直彬注解「唐詩選」

搜玉小集について

書評：ルイ・リコー，ニエム・トアン共譯「武則天」(佛譯)

盛唐詩人と前代の詩人—盛唐に於ける文學論の
一側面—(上)(下)

王維の前半生

中年期の王維

晩年の王維(上)(下)

書評：チェン・インナン，レウイス・ウォルム
スレイ「王維の詩」英譯

李白の樂府について

書評：王瑤「李白」林庚「詩人李白」武部利男
「李白小傳」

書評：黃錫珪「李太白年譜」詹鏞「李白詩文繫
年」

吾道長悠悠—杜甫の自覺—

乾坤と天地—杜甫の世界觀の手がかりとして—
杜詩における抒情

杜甫と月

杜甫の馬・鷹の詩について

杜甫の對句についての—考察

出塞と何國の連章詩 前出塞と後出塞

杜詩「聞官軍收河南河北」考

論杜甫夔州詩

杜甫「秋興八首」序説

杜甫「登岳陽樓」の詩について—「吳楚東南坼，
乾坤日夜浮」考—

杜甫與高適—杜詩札叢之一—

杜甫と元結・「篋中集」の詩人たち

放翁と杜甫

陸游の目に映じた杜甫

日本に於ける杜甫

藤村における杜甫—「ただひとり岩をめぐりて，
この岸に愁を繫ぐ」—

紹介：杜甫誕生千二百五十周年

王梵志について(上)(下)

韓愈南山詩與曇無讖譯馬鳴佛所行讚

書評：陳友琴「白居易詩評述彙編」

小川環樹	11
清水茂	3
花房英樹	18
伊藤正文	15
都留春雄	15
伊藤正文	8, 9
入谷仙介	11
入谷仙介	15
入谷仙介	18, 19
バートン・ワトソン	11
島田久美子	9
福永光司	4
島田久美子	10
小川環樹	17
入谷仙介	17
倉田淳之介	17
吉川幸次郎	17
高木正一	17
高木正一	1
杉本行夫	17
田中謙二	17
饒宗頤	17
黒川洋一	4
黒川洋一	6
夏承燾	17
伊藤正文	17
一海知義	17
前野直彬	17
神田喜一郎	17
黒川洋一	16
笈文生	17
入矢義高	3, 4
饒宗頤	19
花房英樹	14

書評：近藤春雄「長恨歌傳について」	花房英樹	2
元稹の豔詩及び悼亡詩について	山本和義	9
柳宗元の生活體驗とその山水記	潛水茂	2
柳宗元詩考	寛文生	16
書評：施子愉「柳宗元年譜」	寛文生	10
賈島	荒井健	10
李賀の詩—特にその色彩について—	荒井健	3
書評：石川一成「李長吉の色彩感覺」李嘉言 「李賀與晚唐」「詞的起源與唐代政治」「李賀詩校釋」上尾龍介「苦吟と象徴」「李賀と孟郊」「夜の詩人」	荒井健	7
書評：荒井健注「李賀」葉葱奇編訂「李賀詩集」	興膳宏	12
李義山の無題詩	鈴木虎雄	6
温飛卿の文學	村上哲見	5
書評：夏承燾「唐宋詞人年譜」	清水茂	5
教坊記辨附望江南菩薩蠻小考	村上哲見	10
燭背・燈背ということ—讀詞瑣記—	村上哲見	1
紹介：李後主の詞に關する討論	村上哲見	7
書評：A・ホフマン「李煜の詞」「春花秋月」	村上哲見	2
沈亞之と小説	内山知也	12
杜牧と傳奇	清水茂	1
書評：アーサー・ウェイリー譯注「敦煌の歌謠と説話」	入矢義高	16
書評：周紹良「敦煌變文彙録」	入矢義高	5
書評：蔣禮鴻「敦煌變文字義通釋」	入矢義高	11
 6 宋代文學		
書評：錢鍾書「宋詩選註」	小川環樹	10
新五代史の文體の特色	小川環樹	18
蘇軾詩論稿	山本和義	13
詩における比喩の工拙と雅俗—蘇東坡の場合—	小川環樹	2
岳飛「滿江紅」詞考辨	夏承燾	16
書評：歐小牧「愛國詩人陸游」	小川環樹	7
書評：朱東潤「陸游傳」	小川環樹	13
書評：朱東潤「陸游研究」于北山「陸游年譜」	小川環樹	16
放翁と杜甫	一海知義	17
陸游の目に詠じた杜甫	前野直彬	17
辛棄疾「菩薩蠻」（鬱孤臺下）補考	小川環樹	14
宋代演劇窺管—陸游・劉克莊詩を資料として—	岩城秀夫	19
書評：胡忌「宋金雜劇考」	岩城秀夫	8

書評：孫楷第「論中國短篇白話小説」葉德均
「宋元明講唱文學」

小 川 環 樹 1

7 金元文學

明七子の先聲—楊維禎の文學觀について—

前 野 直 彬 5

文學としての「董西廂」(上)(下)

田 中 直 謙 二 1,2

元刊古今雜劇三十種の流傳

岩 城 秀 夫 14

書評：嚴敦易「元劇斟疑」

岩 城 秀 夫 15

書評：顧學頡選註「元人雜劇」

入 矢 義 高 8

紹介：關漢卿研究

田 中 直 謙 二 12

書評：影弘治刊本「西廂記」王季思校注
「西廂記」吳曉鈴校註「西廂記」王季思
「從鶯鶯傳到西廂記」

田 中 直 謙 二 4

8 明代文學

劉基詩序說

福 本 雅 一 18

書評：F・W・モート「詩人高啓」

入 谷 仙 介 20

王世貞の古文辭よりの脱化について

松 下 忠 5

袁中郎の性靈說

松 下 忠 9

明の宮廷と演劇

岩 城 秀 夫 1

書評：八木澤元「明代劇作家研究」

岩 城 秀 夫 11

紹介：最近の中國における琵琶記論争

岩 城 秀 夫 6

戲曲荊釵記はいかに改作されているか

岩 城 秀 夫 6

書評：人民文學出版社「水滸」作家出版社「水滸」
人民文學出版社「水滸全傳」

清 水 茂 1

書評：R・アーウィン「水滸傳の發達史」

小 川 環 樹 3

殘唐五代史演義論—英雄中心主義—

橋 本 堯 20

「金瓶梅詞話」所引の寶卷について

澤 田 瑞 穗 5

書評：J・J・L・ドイフェンダク「中國の神曲」

前 野 直 彬 2

書評：ビショップ「三言の研究」

小 川 環 樹 5

書評：馮夢龍編著顧學頡校注「醒世恒言」

田 中 直 謙 二 6

9 清代文學

「宋詩鈔」の選者たち—「人」によって「史」を存す
紅樓夢の構成について

湯 淺 幸 孫 20
加 藤 知 彦 4

對人稱呼の使用における「正格」と「破格」に
ついて—「紅樓夢」における文體論的研究—

山 口 明 子 11

紹介：紅樓夢研究をめぐる批判討論の経過と論點

村 上 哲 見 2

10 現代文學

書評：王瑤「中國新文學史稿」

相 浦 杲 1

書評：尾坂徳司「中國新文學運動史」

島 田 久 美 子 8

書評：人民文學出版社「魯迅全集」増田渉・松枝茂夫・竹内好編「魯迅選集」	尾崎雄二郎	6
魯迅「野草論」	吉田富夫	16
魯迅の小説の側面一主として作品「藥」について	相浦杲	10
資料：藤野先生小傳	藤野恒道	4
〈子夜〉について	山田富夫	9
茅盾文學序説一「腐蝕」を中心として一	吉田富夫	12
書評：加藤平八譯茅盾「東洋のリアリズム」	谷友幸	11
紹介：胡風批判の経過とその論點	太田進	3
「家」について一巴金の小説意識についての一考察一	下條一誠	11
「太陽照在桑乾河上」をめぐって	島田久美子	5
紹介：丁玲批判について	相浦杲	8
胡萬春という作家	相浦杲	18
「百家争鳴」その後	入矢義高	6
紹介：第三回中國文學藝術工作者代表大會をめぐって	吉田富夫	14
11 比較文學		
書評：太田青丘「日本歌學と中國詩學」	船津富彦	9
書評：小島憲之「上代日本文學と中國文學」(上)	清水茂	18
「女仙外史」と幸田露伴の「運命」	三木克巳	3
藤村における杜甫一「ただひとり岩をめぐりて、この岸に愁を繫ぐ」一	黒川洋一	16
日本に於ける杜甫	神田喜一郎	17
詩經とヨーロッパの民謡	ジャン・ピエール・ディエニ	18
12 日本漢文學史		
書評：小島憲之校注「懷風藻・文華秀麗集・本朝文粹」	入矢義高	20
書評：川口久雄「平安朝日本漢文學史の研究」	清水茂	16
隠れたる批評家一清田儂叟の批評的業績一	中村幸彦	4
13 學界展望		
紹介：フランスにおける中國文學研究の現状	M・カルタンマルク 興膳宏譯	18
紹介：中國文學の領域におけるドイツ支那學の業績	ギェンター・デボン 村上哲見譯	20